

第 42 回 香川用水水口祭概要

| 質 疑 | 応 答 |
|------------------|---|
| 1. 水口祭の趣旨は | <p>香川用水は毎年6月11日からかんがい期に入り、讃岐平野の田植えが本格化する。</p> <p>この日を一つの節目にして「水口祭」を催し、今年<small>みなくちさい</small>の配水の安全と豊潤を祈願し、併せて水への感謝の気持ちを新たにします。</p> <p>なお、香川用水土地改良区では、この水口祭を全国的に展開している21世紀土地改良区創造運動の一環として位置付け、傘下の賦課金徴収委任団体及び配水調整水利組織等にも参加を呼びかけた。</p> <p>更に、役職員には、土地改良区<small>みどり</small>の愛称「水土里ネット」を染めたハッピーを着用させ、広く一般の方々に土地改良区<small>みどり</small>の存在、役割をアピールする予定である。</p> <p><small>みなくち</small> (「水口」の由来)</p> <p>(1) 「水口」とは田んぼに水を引き入れる入口のことをいう。 阿讃導水トンネルの出口にある財田町の東西分土工を水口に見立てて、ここで「水口祭」を斉行する。</p> <p>(2) 讃岐平野では昔から、4月中旬に田植えの準備作業をして地ごしらえをしたとき、水口へ氏神さんから戴いた「お札」(護符)を立て季節の花や焼き米をお供えて水への祈りと感謝を捧げる風習があった。</p> <p>(3) これにちなんで、香川用水の配水が増量されて、本格的なかんがい期に入る6月11日を選んで実施するものである。(6月11日から日量約39万トンとなり前日までの取水量の約3倍に増量される。)</p> |
| 2. 式典はいつ、 どこで | <p>○ 日 時 令和8年6月11日(木) 午前10時</p> <p>○ 場 所 三豊市財田町財田中 香川用水記念公園(水口の広場)</p> |
| 3. 式典の内容は | <p>○ 神 事</p> <p>○ 奉 納</p> <p>① 財田<small>くわ</small>鉾踊り(三豊市財田町)</p> <p>② 財田町長野獅子(三豊市財田町)</p> <p>③ 大野原<small>あおぞら</small>王太鼓(観音寺市大野原町)</p> <p>○ 丸亀市綾歌町の「碧空会」による手打ちうどん<small>あおぞらかい</small>の奉仕</p> |

| 質 疑 | 応 答 |
|-----------------------------------|--|
| 4. 参列者は | <p>○ 招待者は知事をはじめ、国、県や市町の関係者、香川用水土地改良区役員、関係土地改良区及び水利組合等 約420名 一般参加を含め 約700名</p> |
| 5. <small>あめのみくまりのかみ</small> 天水分神 | <p>○ 阿讃トンネルは奇しくも中蓮寺峰の頂上にある旧<small>みくまり</small>水分神社の真下を通っている。そこで天水分神を祭神として神事を行なっている。</p> |
| 6. 香川用水の取水は | <p>(1) 令和8年度取水予定量 農業用水 10.749 m³/S(最大) 100,600 千m³</p> <p>(2) 6月11日の取水量 農業用水 4.568 m³/S (395 千m³/日) 受益：8市6町</p> |
| 7. 香川用水の通水 | <p>○ 昭和49年5月30日 暫定通水(水道用水を取水工からポンプアップ取水) ○ 昭和50年6月11日 本格通水(三木町東部幹線吉田川分水工まで) ○ 昭和53年6月11日 全線通水 ○ 令和6年5月30日 通水50周年</p> |
| 8. 香川県への 総導水量 | <p>○ 昭和57年10月19日に10億トン達成 ○ 平成元年4月14日に20億トン達成 ○ 平成6年10月30日に30億トン達成 ○ 平成11年9月17日に40億トン達成 ○ 平成16年7月28日に50億トン達成 ○ 平成21年8月24日に60億トン達成 ○ 平成26年9月3日に70億トン達成 ○ 令和元年9月25日に80億トン達成 ○ 令和6年10月31日に90億トン達成 ○ 令和7年10月10日に92億トン達成</p> |

第四十二回香川用水水口祭次第

令和八年六月十一日（木）午前十時

開

式

十時

- 一、修 袂
- 一、齋 主 一 拝
- 一、献 饌
- 一、献 幣
- 一、祝 詞 奏 上
- 一、齋 主 玉 串 奉 奠
- 一、玉 串 奉 奠
- 一、撤 饌
- 一、齋 主 一 拝
- 一、水 口 清 袂
- 一、神 酒 奉 灌
- 一、理 事 長 挨拶

奉

納

- ・財田 鍬踊り
- ・財田町長野獅子
- ・大野原 轟王太鼓

十時四十分（開始予定）

十一時二十分（終了予定）

閉

式

十一時三十分

主 な 奉 納

財田鍬踊り

明治 19 年、四国新道の起工式がおこなわれた時に、人々が手に手に鍬を持って、「開けや拓け布多那人、阿波、土佐、讃岐、伊予かけて、面四つ並ぶ国々を、貫き通る新街道・・・・」と歌いながら踊ったのがはじまりで、財田が生んだ明治の偉人「大久保謹之丞」自らも鍬を持ち振って踊りあかしたと言われています。昭和 61 年から、町の活性化のため鍬踊り保存会が謹之丞の心を継承し、新たに曲を作り踊り伝えています。



財田町長野獅子

地元の雨ノ宮神社に奉納する郷土芸能で、五穀豊穡を祈願して行われています。

長野獅子組は、地元の青年部や小学生で構成されており、毎年水口祭や、地域の秋祭りに参加しています。



大野原龍王太鼓

大野原の歴史を太鼓の音にイメージし、創作された龍王太鼓は、雨乞い太鼓として、あるいは豊穡を祝う太鼓として、さまざまな形で表現されています。第 1 章「黎明語る巨石墳」に始まり、第 2 章「古代を偲ぶ急就章」、第 3 章「戦乱の悲話伝承」、第 4 章「豊作祝う奉納太鼓」、第 5 章「大野原町民魂」、第 6 章「未来へはばたく躍動の響」という全 6 章から構成され、先人たちの偉業を偲ぶとともに、未来への躍動が表現されています。

これまで、町内各地はもとより、北海道、大阪花博出演など全国各地のイベントにも参加し、そのダイナミックな和太鼓演奏は大好評を得て、観音寺市の PR にも大いに一躍買っています。

